



平成22年10月29日

各 位

会社名 メルクス株式会社
代表者名 取締役社長 榎田 了
(コード番号：7934 東証第2部)
問合せ先 執行役員管理本部長 内海 潔
(TEL. 0265-22-2910)

事業の現状および今後の展開等について

当社は、事業の現状および今後の展開等について、下記の通り株式会社東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第601条第1項第4号aに定める書面を提出しましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、東京証券取引所有価証券上場規程第601条第1項第4号aに定める期間は9ヶ月となりました。従いまして、平成23年4月末日までのいずれかの月において、月間平均時価総額および月末時価総額が基準額以上（注）となった時は、同上場廃止基準に該当しないこととなります。

（注）上場株式に係る時価総額基準につきましては、平成21年1月末より平成22年12月末までの間、時価総額基準が10億円未満から6億円未満に変更となっており、変更後の基準に基づき記載しております。

当社では、下記に記載した中期経営計画各施策の遂行に、全社員一同が全力で取り組むことにより、業績の向上と株式市場からの信頼の回復を図り、今後とも東京証券取引所市場第二部における上場を維持するよう努めてまいり所存であります。

さらに、事業提携なども視野に入れた形での海外事業の展開、および研究開発の早期実現によって、企業価値の回復・向上を図ってまいります。

株主の皆様をはじめ関係者の皆様には多大なご心配をお掛けいたしますが、何卒ご理解並びにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 事業の現状について

(1) 企業理念と中期経営計画

当社は、環境に配慮しつつ、皮革という自然の素材に付加価値をつけ、資源としてのリサイクルを果たすことで、企業価値を高め、当社と関わりを持つ全ての関係者の方々にご満足いただくことを基本理念とし、グローバル企業への脱皮、社会に存在感のある企業、革の良さを発信することのできる企業を目指すことを経営ビジョンとして事業の展開を行ってまいりました。当社では、企業価値の回復・向上には、将来にわたっての効率的・安定的なキャッシュフローの産出が重要な要素であると認識しており、同時にこのことが全ての関係者の方々にとってご満足いただけることにつながるものと考えております。

こうした経営ビジョンを具体化するための戦略を担保するものとして、平成 21 年 3 月に外部環境の激変を考慮し、さらに踏み込んだ施策を盛り込んだ上で中期経営計画の改訂を行い、業績の回復に努めてまいりました。

当該中期経営計画の進捗は、平成 20 年後半の米国の金融危機に端を発した景気後退の深刻な影響を受けて、想定を超えた景気の低迷とデフレの進行により、売上は販売量と販売単価の両面から苦戦を強いられることとなりました。生産量が低水準となったため、たな卸資産の単価が上昇した反面、販売単価は低下圧力に曝され、損益分岐点を割り込むとともに、たな卸資産の評価損等が追加的に計上されたため、結果的に中期経営計画の進捗に遅れが生ずることとなりました。

一方で、当社グループの中国における連結子会社佛山市メルクス皮革有限公司は 2009 年 12 月期において、計画を上回る黒字を計上することができました。また、当社においても、平成 21 年 12 月に希望退職を実施するなど固定費の削減にまで踏み込んだ施策や原皮費・薬品費等の効率化、生産工程の合理化などの施策を経営計画に沿って継続的に実施してまいりました。こうした施策の効果により損失額および損失幅は改善に向かっております。また、前連結会計年度第 4 四半期以降、回復基調にあると判断できる状況に到達できたことなど、遅れが生じているものの、当該中期経営計画の有効性は失われていないと判断しております。当社グループを支援して頂いている金融機関からも当該中期経営計画の有効性に理解を頂いており、資金面での懸念は無いと認識しております。

当該中期経営計画の骨子は次の通りとなっております。

① 経営方針

- * コスト構造の改善
- * 財務体質の強化
- * 品質優位性・顧客基盤の堅持

② 戦略基軸

- * 事業再構築
- * 調達先・外注先の再構築と海外拠点・提携先の一層の活用
- * バランスシートのスリム化

③ 具体的施策

- * 個別散在顧客の選択と集中
- * 原皮調達の多様化・中間原材料の仕入先の拡大
- * 固定費の詳細な見直しと削減
- * 在庫管理徹底による在庫の圧縮
- * 人員体制の見直し
- * 保有有価証券などの処分による効率化
- * 計画遂行管理の組織定着

(2) 業績の推移

平成 22 年 3 月期（前期）の業績は、中期経営計画の各施策の効果もあり、連結・個別の業績それぞれにおいて、前々期に比して、売上高は 6 割程度と大きく落ち込んだものの、当期純損失の計上は、ほぼ半減させることができました。

当期の業績は、引き続きデフレ環境と個人消費低迷の影響によって、中期経営計画の効果が十分に現れていない部門もあるものの、前年度第 4 四半期以降の自動車業界の回復に伴うカーシート部門の販売増加や、新規開発分野の受注によって、全体の売上高は、前年同期比では 10%強の増収基調にあ

り、販売量・生産量の回復から採算面での改善も進み、中期経営計画の達成による黒字化に近づきつつある状況となってまいりました。

連結業績の推移

(単位:百万円)

事業年度		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
21年3月期	通期合計	6,058	△ 587	△ 736	△ 1,039
22年3月期	第1四半期	613	△ 200	△ 174	△ 110
	第2四半期	884	△ 133	△ 168	△ 92
	第3四半期	932	△ 77	△ 124	△ 161
	第4四半期	960	△ 106	△ 100	△ 155
	通期合計	3,390	△ 518	△ 567	△ 519
23年3月期 (当期)	第1四半期	987	△ 86	△ 97	△ 103
	第2四半期(予定)	1,093	△ 59	△ 89	△ 95
	上期合計(予定)	2,080	△ 145	△ 186	△ 198

2. 今後の展開

今後の展開につきましては、外部環境は雇用不安や個人消費の低迷など引き続き厳しい環境にあり、予断は許さないものの、主原料として天然素材である牛原皮の多くを輸入に頼る当社にとって、昨今の環境意識の高まりや為替相場の円高基調は、中期経営計画進捗の背景としては好ましいものとなっております。

コア事業である皮革製造においては、自動車業界の回復に伴って、海外では子会社佛山市メルクス皮革有限公司の業績が既に回復していることや国内のカーシート部門が計画を上回る勢いで推移しております。一方で、景気動向を反映して、靴部門と家具部門におきまして、そのスピードは緩やかなものとなっておりますが、売上の回復は着実に進んでおります。

全体としては、前期までに中期経営計画の施策である、バランスシートのスリム化による借入金的大幅な削減、希望退職の実施による固定費の削減等の中期経営計画の施策を完了し、コスト構造の改善や財務体質の強化など収益回復の基盤は整ってまいりました。

さらに、靴部門と家具部門では売上回復を待つだけではなく、既存の靴関連事業、インテリア関連事業に加えて、より高付加価値な商品による新規販売分野の開拓のために、世界的な基準である「エコテックス 100」の認証を取得したエコレザーの開発、船舶に搭載する製品に係る国土交通省の「型式承認」を取得した難燃革の開発、マイナスイオンを発生させるインテリア用革の開発を行い、既に販売の実績を重ねており今後一層の市場への浸透と拡販を図ってまいります。海外事業の展開については、既に収益体質の確立された中国連結子会社佛山市メルクス皮革有限公司を主体として、一層の業務の拡大を図ってまいります。

これら既存の中核事業の回復・安定化に加えて、調達先・外注先の再構築と海外拠点の一層の活用、あるいは事業提携等の締結も視野に入れ検討を進めております。また、研究開発にも同時並行的に取り組んでおり、平成22年6月に高機能化学合成の分野で、経済産業省の特定研究開発等計画の認定を受け、早期の実用化に向け着実に取り組んでおります。

上記のように、中期経営計画の確実な遂行による早期の収益回復に加え、海外業務の拡大、研究開発

の実用化によって、安定的な収益とキャッシュフローを生み出せる基盤を構築することにより企業価値を高め、当社と関わりを持つ全ての関係者の皆様の信頼を回復し、東京証券取引所での上場を維持するよう努めてまいり所存です。

また、当社では来年10月に創立100周年を迎えるにあたり、中期経営計画の達成はもとより、100年革のプロデュースをはじめ、当社ホームページに掲載しておりますように種々の100周年記念運動を展開するなど、全社員一同で業績の向上に取り組んでおります。株主の皆様をはじめ関係者の皆様には多大なご心配をおかけいたしておりますが、ここにお伝えいたしましたように、当社の現状と今後の進展にご理解を賜わりまして、今後とも引き続き格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、平成23年3月期の第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、別途、本日付で業績予想の修正を公表し、下記の通りとなっております。

【連 結】

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
第2四半期(累計)	2,080	△145	△186	△198
通 期	4,450	△85	△170	△185

【個 別】

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
第2四半期(累計)	1,530	△180	△202	△209
通 期	3,300	△150	△195	△205

以 上